

俳句通信

特別作品25句 草深昌子「咲きのぼる」

特集Ⅰ 〈三橋敏雄生誕100年〉

三橋敏雄100句 林 桂・選

「三橋敏雄の転換願望」遠山陽子

「極私的回想——私淑のち師事」池田澄子

「敏雄礼賛」岸本尚毅

「三橋敏雄断章」澤 好摩

「三橋敏雄論——伝統と前衛を統ぶ者」林 桂

「カラスアバラタス—鴉を飛び交わせる装置—

北川美美

「敏雄と戦争」生駒大祐

「三橋敏雄、新資料にみえる志」大井恒行



特集Ⅱ 新主宰・新代表 競詠20句

柴田鏡子(笹)「天上良風」

島居真里子(門)「片見月」

蔵多得三郎(嶺)「文弱の徒」

山田真砂年(稲)「秋のきらめき」

川上良子(花野)「小鳥来る」

和田洋文(湾)「名残りの糸」

田湯 岬(道)「石狩」

依田善朗(礫石)「朝日」

【円熟作家12句】

関 成美「またその先も」

名和未知男「平林寺」

早野和子「秋晴れ」

●作品●中村和弘・加古宗也・松尾隆信・南うみを・
片桐基城・畑中とほる・飯野幸雄・甲斐遊糸・
渡井恵子・宮谷昌代・浅井民子・河内静魚・
高橋健文・佐怒賀直美・和田華凜・成田一子 ほか

北山はけふもしぐれよ 葵橋 尾池和夫
修学院離宮へ坂の霜柱 尾池葉子

京都盆地の歴史は約一二〇万年、山が隆起して盆地に堆積層が発達しました。京の歴史は約一三〇〇年、都の堆積層の地下水から茶の湯や京料理などの文化、つまり変動帯の文化が生まれしました。琵琶湖疎水の歴史は約一三〇年、京都市民に美味しい水を供給しています。そのような歴史を思いながら岡崎公園一帯を歩き、琵琶湖疎水の桜、東山に昇る月、南禅寺の紅葉、また比叡山にかかる時雨雲を詠む、そのような散策の道がたくさんあります。

尾池和夫 尾池葉子



季節の中で ⑩

東京都・殿ヶ谷戸庭園



綿虫飛ぶビッグバンから遙か経て



守屋明俊

宇宙に水を湛えている星がどれ程あるか知らないが、この水の星地球に生まれて僕は七十歳を迎えた。幼少期に過ぎた浅草では大雨が降り家の畳が浮いた。捕った籠の鼠を水死させた母。水鉄砲の水で弟を何回も殺した。年を経て、薬を飲むにも水、髭を剃るにも水、皿を洗うにも水。水の恩恵は計り知れない。ここ国分寺の殿ヶ谷戸庭園には縄文人も飲んだという清い水が湧く。不思議な水。その水を私たち人類は汚染し、命あるものの生態系を崩している現実。
〈秋殊に水は尊し岸線いしづの径 明俊〉。

海へ出て空のまぶしき蒼鷹 森 澄雄

オオタカ

オオタカは仁徳天皇の時代から鷹狩りに使われて来たが、1984年の生息調査では全国で400羽程に激減した。その後、保護活動により2006年には5800羽に回復し、レッドデータブックから除外され現在ではさらに全国的に増えている様だ。

冬によく晴れた寒い朝、川面から霧が立ち、鴨やカイツブリがゆったりと泳ぎ、キジバト、シジュウカラ、ヒヨドリなどが鳴いていた。こんな穏やかな日はいつも釣れないと思いつつ、気持ち良く釣りを始めた。

急に鳥達の声が消え、静まりかえった。鷹か？と思った瞬間恐ろしい羽音と共にバリバリッと枯れ草の中へオオタカが突っ込んだ。逃げ惑う鴨を草を薙ぎ倒して追い掛ける。すぐに羽毛が草の間から飛び散って、またもとの穏やかな朝になった。

映像で見た事はあるが比べ物にならない凄まじい一瞬の戦闘であった。信長や家康などの戦国武将が鷹狩りを好んだのがよく分かる。

絵・文 杉原武弘



特別作品25句

咲きのぼる

草深昌子

秋風に何かはじまる椅子の数
あかあかと子規が心の草の花
底紅や舟降りて聞く舟のこと
着物著てベレー被つて野菊かな
空ぢゆうに雲湧く子規の忌なりけり
うれしさは会うて萩咲く寺のうち

特集Ⅱ

新主宰

俳句の世界は世代交代の時代に入ったのかもしれませんが、
このところ、新主宰・新代表の誕生が

目立ってきているようです。

ということで、新主宰・新代表8人の方に

登場していただきました。

新代表

競詠20句